

BDHQ における「日本人の食事摂取基準(2010年版)」への対応の考え方

■考え方

「日本人の食事摂取基準(2010年版)」は厚生労働省から出されている食事のガイドラインであり、2010年4月から2015年3月まで使用することになっています。

BDHQは上記の期間、「日本人の食事摂取基準(2010年版)」に基づいて、個人の結果を評価し、その結果を栄養価計算結果データベースファイル(Excelファイル)に格納するとともに、個人結果帳票で活用できるようにするため、本年4月までにバージョンアップを行いました。

■日本人の食事摂取基準(2005年版)の取り扱い

2005年4月から2010年3月までは、厚生労働省からは「日本人の食事摂取基準(2005年版)」が出されていました。BDHQでもこの期間、これに準拠した形で運用をしていました。

しかし、上記のように、2010年4月から2015年3月までは「日本人の食事摂取基準(2010年版)」を使用することになっていますので、BDHQでも2010年4月からは「日本人の食事摂取基準(2005年版)」の利用は中止するのが正しいと考えます。

以上の理由により、「日本人の食事摂取基準(2005年版)」に基づいて行われた評価結果は使わず、今現在もお使いの場合は、速やかに「日本人の食事摂取基準(2010年版)」に切り替えをお願いいたします。

BDHQでは、厚生労働省の食事摂取基準の改定に伴い、2010年4月から、「日本人の食事摂取基準(2005年版)」の利用を中止し、「日本人の食事摂取基準(2010年版)」の利用を開始いたしました。

■「日本人の食事摂取基準(2010年版)」の使用(切り替え)のお願い

対象者の方の食習慣を正しく判定し、食習慣の改善に活用していただくことを目的として、BDHQでは、個人結果帳票を作成しております。その意図をご理解いただき、また、対象者の方の健康づくりの大切さをご理解いただき、その時点で最高のエビデンスのあるガイドラインを参照し、活用していきたいと考えておりますので、「日本人の食事摂取基準(2010年版)」の使用の徹底についてご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

■発生しうる問題への対応(個人への結果返却)

2010年4月をまたいで調査や研究を継続していて、同じ対象者にその前後で2回(以上)BDHQを用いたアセスメントを行い、その結果を返却する場合に問題が生じます。たとえば、摂取量が変わらなくても、評価法が変わったために、結果が変わってしまうからです。しかしながら、複数回のアセスメントを行う場合に、対象者ごとに初回のアセスメントにおける評価法を用いてその後の評価を行うようにするのは、システム上、非常に難しいのが現状です。これは、古い(本来、使うべきでない)評価法がそのまま他の対象者に誤って使われる危険を残してしまうことにもなりかねません。そのため、このようなケースは特殊例と考え、お許しをいただき、やはり、2010年4月以後に評価を行う場合には(事実上、データ収集を行う期日ではなく、「栄養価計算を行う」期日に依存します)、「日本人の食事摂取基準(2010年版)」に準拠した結果をお使いいただきたいと考えております。

■発生しうる問題への対応(研究での解析)

BDHQでは、エネルギーと栄養素の摂取量を栄養価計算結果データベースファイル(Excelファイル)に格納してありますので、これらの数値を使えば、どの時期の食事摂取基準に基づいた評価も可能です。この種の計算は、統計パッケージなどを各研究者が使い、行っていただきたく、お願いいたします。

【以上】

この内容は予定なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。